

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成20年7月17日(2008.7.17)

【公開番号】特開2006-23752(P2006-23752A)

【公開日】平成18年1月26日(2006.1.26)

【年通号数】公開・登録公報2006-004

【出願番号】特願2005-200723(P2005-200723)

【国際特許分類】

G 0 3 F 7/00 (2006.01)

G 0 3 F 7/004 (2006.01)

G 0 3 F 7/033 (2006.01)

G 0 3 F 7/32 (2006.01)

【F I】

G 0 3 F 7/00 5 0 3

G 0 3 F 7/004 5 0 5

G 0 3 F 7/004 5 0 7

G 0 3 F 7/033

G 0 3 F 7/32

【手続補正書】

【提出日】平成20年6月3日(2008.6.3)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

( i ) 親水性表面を有するかまたは親水性層が設けられた支持体およびその上に設けられたコーティングを有する感熱性ネガ作用性印刷版前駆体であって、コーティングが疎水性熱可塑性重合体粒子および親水性結合剤を含んでなる像記録層を含んでなり、ここで疎水性熱可塑性重合体粒子が 4 5 n m ~ 6 3 n m の範囲内の平均粒径を有しそして像記録層中の疎水性熱可塑性重合体粒子の量が像記録層に関して少なくとも 7 0 重量%である印刷版前駆体を準備し、

( i i ) コーティングを熱または赤外光に露出し、それによりコーティングの露出された領域における熱可塑性重合体粒子の合体を誘発し、

( i i i )  $pH \geq 11$  を有しそして燐酸塩緩衝剤または珪酸塩緩衝剤を含んでなるアルカリ性水溶液を適用することにより前駆体を現像し、それによりコーティングの露出されなかった領域を支持体から除去する

段階を含んでなる平版印刷版の作製方法。

【請求項 2】

疎水性熱可塑性重合体粒子が 4 5 n m ~ 5 5 n m の範囲内の平均粒径を有する請求項 1 に記載の平版印刷版の作製方法。

【請求項 3】

像記録層中の疎水性熱可塑性重合体粒子の量が像記録層に関して 8 5 重量%未満であるか又は 8 5 重量%に等しい請求項 1 ~ 2 のいずれかに記載の平版印刷版の作製方法。

【請求項 4】

親水性結合剤が  $pH \geq 10$  を有する水性現像液に可溶性である請求項 1 ~ 2 のいずれかに記載の平版印刷版の作製方法。

**【請求項 5】**

コーティングが像通りの露出後であるが現像前に可視像を与える 1 種もしくはそれ以上の化合物をさらに含んでなる請求項 1 ~ 2 のいずれかに記載の平版印刷版の作製方法。